

文学部が創立50周年

記念祝賀会

半世紀の歩み語り合う

文学部(廣瀬玲子学部長)の創立50周年を記念する祝賀会が12月6日、生田キャンパスで開かれた。

文学部と、文学部改組により2010年度に独立した人間科学部(山上宮多喜次校友会長らの祝

辞が続いた。同学部では創立50周年記念企画実施委員会実行委員長の荒木敏夫教授のもと、1年間にわたって各学科の特徴を生かした講演会・シンポジウム、展示、演劇、出張授業などを実施してきた。

この日はその企画運営に尽力した関係者も参加し、教員の代表から発表があった。

また、50周年企画のホームページの扉に登場した「文質彬彬」を揮毫した仲川恭司名誉教授が廣瀬学部長に作品を贈呈した。



仲川名誉教授(右)から廣瀬学部長に作品が贈呈された



記念企画の一環で一人芝居を披露した柴田義之さん(中央)と山本隆世さん(左)。川上隆志教授が当日の様子を紹介

法学研究所「現場からの法律学・政治学」 増加する児童虐待

第一線から報告

法学研究所(森川幸一「現場からの法律学・政治学」を始めた。国際法、刑事法、地域行政の分野の第一線から報告

者を引き、現場が直面する問題を聞き、法学部の教員が解説する。

12月10日は「地域行政の現場から」として東京都児童相談センター相談援助課長の上川光治氏が児童相談所の現状を報告した。

上川氏は児童相談所の体制強化とともに区市町村の関係機関との連携強化が必要であると訴えた。また日ごろから児童虐待の兆候をいち早く把握できるような、地域社会が関心を持つことが肝要であると語った。これに対し、鈴木准教授は関係機関の連携について「職員同士が顔の見える関係



参加者からの質問に答える上川氏(右)。左が鈴木准教授(12月10日) 第1回講座で森川所長(左)と中村氏(10月22日)

ベトナム社会科学院副院長来学

佐々木学長と意見交換

専修大学と組織間の交流をもつベトナム社会科学院のフアン・ヴァン・ドック副院長が来学し、佐々木重人学長と意見交換をした。ベトナム社会科学院は政府直属の研究機関で、社会科学分野の研究機関である。

ドック副院長は来学し、佐々木重人学長と意見交換をした。ベトナム社会科学院は政府直属の研究機関で、社会科学分野の研究機関である。

「相対的貧困」のような所得を基準とした貧困の説明ではなく、雇用、家庭生活、地域社会、社会参加、余暇、教育などの局面で、本来の「人の権利」が奪われているのかを「奪われている」と語った。 報告では、この「相対的貧困」を解消するために「公的サービスの現物給付が求められる」と語った。 大幅な改善を提唱した。小池准教授は、ピーター・タウンゼントの「剥奪的貧困」概念を手がかりに報告。「剥奪的貧困」とは、「絶対的貧困」や

告。鈴木潔法学部准教授(公共政策)がコメントした。

全国の児童相談所が2015年度に対応した児童虐待の件数は、前年度比16%増の10万3260件で過去最多となった。しかし、児童相談所の増設や児童福祉司の増員などの対応が追いついていない。

上川氏は児童相談所の体制強化とともに区市町村の関係機関との連携強化が必要であると訴えた。また日ごろから児童虐待の兆候をいち早く把握できるような、地域社会が関心を持つことが肝要であると語った。これに対し、鈴木准教授は関係機関の連携について「職員同士が顔の見える関係

韓国法と社会公開シンポジウム開催

法学研究所は公開シンポジウム「韓国法と社会」を開催する。3部展開で、講師報告のあと本学教員がコメントをする。

▽2月4日(土) 10時30分～16時▽神田キャンパス301教室▽第一部 E-mail: houken@isc.seishu-u.ac.jp

「韓国の裁判制度における「司法の政治化」という現象」岡克彦福岡女子大学教授▽第二部「韓国の統治機構」大統領制」と憲法裁判所」國分典子名古屋大学教授▽第三部「変革期の「家族」と法」青木清南山大学教授※入場無料、事前申し込みの必要なし

▽2月4日(土) 10時30分～16時▽神田キャンパス301教室▽第一部 E-mail: houken@isc.seishu-u.ac.jp

清田名誉教授を鍛造協会が表彰

人材育成に貢献

中小企業論、経営学を専門とする清田誠吾名誉教授が日本鍛造協会(八木謙廣会長)から功労者(商学部教授)らと懇談。これまでの交流実績を踏まえ包括的な国際交流協定の実現を目指す、前向きな話し合いがなされた。

また16日には、社会科学研究所の特別研究会に参加し、ドック副院長が講演した。

訪問中、通訳を務めたチャン・ホアン・ロン氏はベトナム社会科学院のインドネシア研究所で政治安全保障研究室長を務めている。2007年10月から一年半、本学大学院に国費留学し、元文学部教授の新井勝紘研究室で日本近・現代史の研究に励んだ。

最終講義のご案内

◆梶原勝美商学部教授 1月21日(土) 13時5分 生田キャンパス713教室

ドック副院長一行4人は12月19日、生田キャンパスを訪れ、佐々木学長、金子洋之副学長、研究機関が組織間協定を結び、佐々木重人学長と意見交換をした。ベトナム社会科学院は政府直属の研究機関で、社会科学分野の研究機関である。



右からドック副院長、ロン氏、佐々木学長

社会科学研がシンポジウム

「格差」を越えて

社会科学研究所(村上俊介所長)の公開シンポジウム「格差の諸相」が11月26日、生田キャンパスで開かれた。

「分断社会」について論じ注目を集めている慶応大学経済学部の井手英策教授(財政社会学)と本学経済学部の福島利夫教授(経済統計学)、高

格差「分断社会」をどう変革するか

橋祐吉教授(労働経済論)、小池隆生准教授(社会保障論)の4氏が、それぞれの専門分野から「格差」について論じた。

井手英策教授は、1997、98年を境に所得格差が顕在化し、それに伴う危機感や中間層で深刻化していることを示し、98年ごろから従来の「日本型企業社会」が終焉しはじめ、個人の孤立が進んだと指摘、今後は「人間」に値する生活への転換、最低賃金の

「格差」を越えて」という意識が生まれ、それが分断社会を作ると指摘。それを防ぐためには一律同率課税による定額現物(教育、医療などのサービス)の給付によって「誰もが受益者になれる」と論じた。

福島教授は、統計数値を示し、98年ごろから従来の「日本型企業社会」が終焉しはじめ、個人の孤立が進んだと指摘、今後は「人間」に値する生活への転換、最低賃金の